Medical Excellence JAPAN理事長

近藤 達也

こんどう・たつや　東大医卒、国立国際医療センター病院長などを経て、08年医薬品医療機器総合機構（PMDA）理事長。「レギュラトリーサイエンス」（規制科学）を推進し、わが国の医療改革に貢献。19年から現職。78歳。

講壇

ギリシャに源流たどる合理性

「患者中心」の医療改革を

私は1968年9月に大学を卒業した。この時代は東大紛争の真っただ中。無給インターン制度、無給医局員問題、不当な学生処分についての曖昧な当局の対応に対する医学部のストライキは、全学的な大学体制への不信となり、全国の大学にも及んだ事件だった。同年7月頃に、過激な仲間から、「まだ医者になろうと思っているのか」と決定的な決断を迫られたのを機にストライキから外れ、9月に半年遅れて卒業した。以後、医師として社会の一員として常に合理的な改革を念頭に業務に従事する覚悟を持っての卒業だった。

脳神経外科医としてのスタートだったが、医療全般について患者の診察はそのプロファイリングに努め、最善の医療を、最新の医学・科学を導入することを目指した。広い視野で考察したアイデアがいろいろな局面で浮かび、発明、発見だけでなく、患者のQOL改善、さらに組織や病院の運営などの合理的な方策を次々と打ち出した。それなりに成果を上げたと思っている。

■■■

「合理的医療」が私の基本的なコンセプトだ。現在の国立国際医療研究センター（NCGM）の病院長時代は、「高度専門・総合医療」を提唱し、病院として各専門診療科は、尖った専門性を磨くとともに、他の専門診療科と連携を取り、患者中心のバランスの取れた医療を推進。医師は自己の専門性を磨くとともに、他の診療科医師との連携で総合医の知識も身につけるよう要請した。病院、そして個々の医師としても、患者中心の「高度専門・総合医療」の概念の普及は日本のこれからの医療体制の重要なカギと考える。

医療従事者の基本姿勢「ヒポクラテスの誓い」

2008年に独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に転じて真っ先に行ったことは、職員全員で理念を作成したこと。「国民の命と健康を守ることを絶対的な使命感」と冒頭に掲げ、国民の信頼をいただいた。倫理的な要素の詰まった規制におけるレギュラトリーサイエンスを取り入れ、さらに17年に〝Rational Medicine Initiative〟を内外に提唱。これらはMEJでも大事な基本的な概念である。この言葉は、周囲の仲間と相談の上、患者を全体として診るという〝Holistic Medicine〟では弱いと考え、創り出したものである。

■■■

英ニューカッスル大学のジェームス・ロングリッグ氏が93年出版したのが『Greek Rational Medicine』。ギリシャの医学が西欧の医学に果たした役割は「Rational Medicine」の創造である。ギリシャは、医学において自然界の中で息づいてきた数々のマジカルな宗教的な要素をほとんどの部分で解き放ち、医学に合理的なシステムを創造したと述べている。これは、イオニア方言で書かれ、イオニアの合理主義という背景なしではヒポクラテスの医学は決して考え出されるものではない、と述べている。

この概念は3世紀のアレクサンドリアで大きく栄え、初めての死体解剖が行われ、ギリシャ本土で深く根づいていた死体解剖を妨げる迷信を打ち破り、16世紀までに西洋医学の中で卓越した解剖学の発展を促進。19世紀までに一般的な西洋医学の理論の基礎を形成したと述べている。

日本は今後、医学、医療、医療制度など、国民目線で最も合理的なものを提供すべくレギュラトリーサイエンスの手法により、エビデンスベースで納得のいく改良を加え、それらを世界の人々に提供すべく努力していくべきであると考える。

（次回は早稲田大学政治経済学術院副学術院長の深川由起子氏です）

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社